友人及び親の行動が大学生の規範と環境配慮行動に及ぼす影響

環境計画研究室　伊藤響

背景と目的

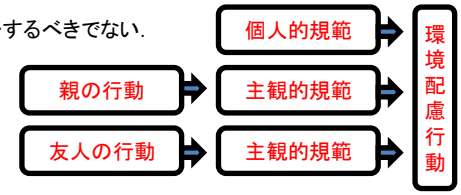
現状
- ごみのポイ捨て問題は他の環境問題の原因にもなっている.
- 統計資料が非常に少ないことなど実態が不明瞭で，有効な対策があまり無い.

目的
- 問題の解決には環境配慮行動の促進が重要であることは明白である.
- 効率的な環境配慮行動の促進のために，環境配慮行動の規定因の解明・モデル化を行う.

【親】モラルにも通ずる倫理的義務感.（例）自分はポイ捨てをするべきでない.

【子】親からの行動に対するプレッシャー.
（例）親は私にポイ捨てをして欲しくないと思っている.

【大学生】親の行動よりも友人の行動が環境配慮行動に影響を与えるのでは？・・・**仮説**



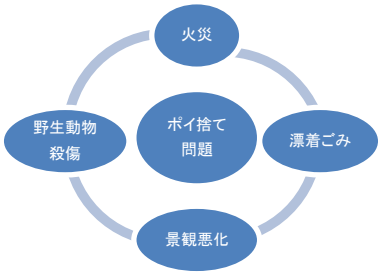


図1　ポイ捨てによる他の環境問題

研究方法

仮説モデル構築
計画的行動理論を基に構築

アンケート
【対象】
鳥取大学の1~3年生246名
（有効回答率90.2%）

分析
【分析ソフト】
コンピュータソフトウェアR
【手法】
構造方程式モデリング

結果

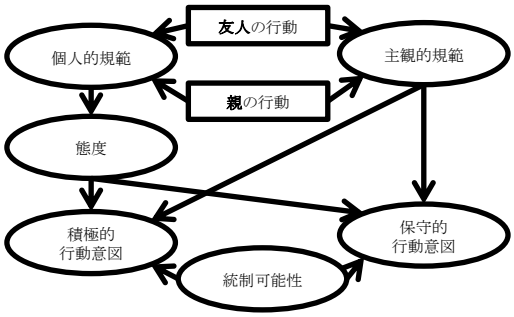


図2　仮説モデル

表1　仮説モデルの適合度指標

GFI	AGFI	CFI	RMSEA
0.716	0.625	0.760	0.108

当てはまりが悪くモデルの構築を見直す必要がある.

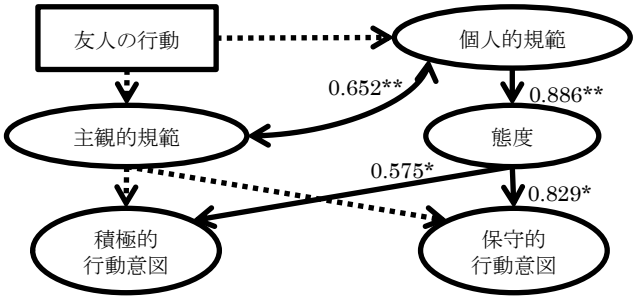
考えられる理由
仮説モデルのパス（矢印）が多かったのではないか.

友人からの影響と**親からの影響**の二つに分解

適合度は向上

表2　再構築モデル①の適合度指標

GFI	AGFI	CFI	RMSEA
0.821	0.745	0.900	0.081



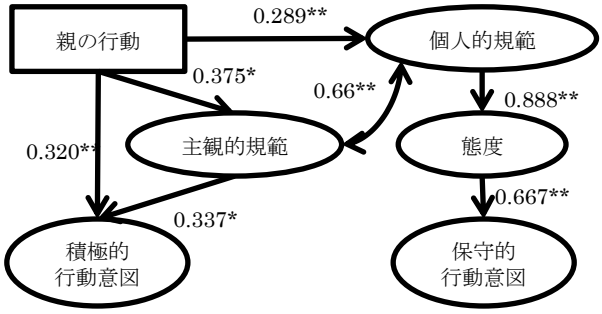
**p<.01，*p<.05　図3　再構築モデル①

は有意でない
は有意

適合度は向上

表3　再構築モデル②の適合度指標

GFI	AGFI	CFI	RMSEA
0.835	0.756	0.913	0.078



**p<.01，*p<.05　図4　再構築モデル②

まとめ

・友人の行動からそれぞれの行動や規範へのパスは有意でなかった.

考えられる理由

対象者の**91.9%**が一人暮らし → 社会的な**責任感**や**自立心**の芽生え

今後の課題
強い**個人的規範**の確立？

・親の行動からそれぞれの行動や規範へのパスは有意であった.

ポイ捨てをする人
環境問題に対する自己倫理感が欠落している.

ゴミ拾いをする人
親の行動や，親からの期待が影響している.

長期的な目でみれば，環境配慮行動の効率的な促進には幼いころからの**親の教育**が重要.